

スカウト活動の場

山谷えり子



わが家はスカウト一家でした。夫は少年時代にはボーイスカウト、私もガールスカウトでした。三児もスカウトで、リーダーを務めた子もゐます。国会ではボーイスカウト振興国会議員連盟(百七十一人)とガールスカウト推進議員連盟(八十三人)のメンバーとしてスカウト活動の振興につとめてゐます。

「世界のどこに行っても、元気に仲良く暮らせる人になれるやうに」との父の思ひから、福井にガールスカウト支部ができるとすぐに入会したのは日本の主権回復から間もない頃でした。手さぐりの活動がとても楽しかった思ひ出です。

そもそも、ボーイスカウト活動は、明治四十年に英国の島でおこなはれたキャンプからで、協調性、チャレンジ精神、リーダーシップを養ふことを願った退役将軍のベーデン・パウエル卿が始められた運動でした。現在世界で二百十五の国と地域で約四千万人が活動してゐます。日本は大正十一年にボーイスカウト国際事務局に登録しました。ガールスカウトはその少女版で、「備へよ常に」の共通スローガンのもと活動してゐます。

来年七月には第二十三回世界スカウトジャンボリーが日本で開かれます。山口市阿知須・きらら浜で開催される準備に、国会議員連

盟も活動中です。大会の主題は「和」で、約三万人の青少年が約二週間、キャンプや活動を通じて「和」の心と、環境、平和、伝統などについて理解を深め合ふ準備に心躍る気持ちがいえます。

神社の御神域などでたくさんの野外活動をさせてもらへた日々を今も私は宝物のやうに感じてゐます。現在全国神社スカウト協議会のもと、九十五団体が活動中と聞いてゐます。飯盒炊爨やキャンプファイヤー、手旗信号、縄結び、世界各地の歌や踊りを学んだこと、奉仕活動と冒険、とりわけ悪天候の中でのキャンプはサバイバル精神を養ってくれ、父の願ひだった「世界のどこに行っても、元気に仲良く暮らせる人に」にいくら近づけたかとも思ひます。

若い頃のアリゾナ砂漠での暮らしや国会議員になってからのイラクやアフガニスタン、アフリカ各国の奥地を調査のために走り回った時など、ガールスカウト時代の体験が自分の体と感覚の中に息つき支へてくれてゐるのを感じたものでした。ガールスカウトは、力仕事などもすべて女子だけでやり抜かねばなりません。とくに女子のリーダーシップ力を鍛へる恰好の場だと思ひます。

昨今は、塾通ひなどで子供が忙しく、スカウト参加への理解が難しい状況にあると聞いてゐます。どこでも明るく爽やかに生きていく強い心を育てるスカウト活動の拠点に神社がこれまで多大な支援をされてきたことに感謝し、活動の意義を広く理解してもらへるやう努めて恩返しをしたいと思ひます。

(参議院議員、神道政治連盟国会議員懇談会副幹事長)

杜に
想ふ